

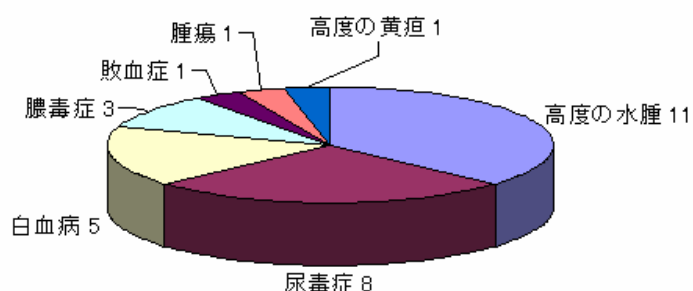
平成19年度の全部廃棄状況

全部廃棄とは、と畜検査において全身性の疾患と診断され、食用不適として枝肉やその副産物である内臓・皮・骨などを全て廃棄処分することです。

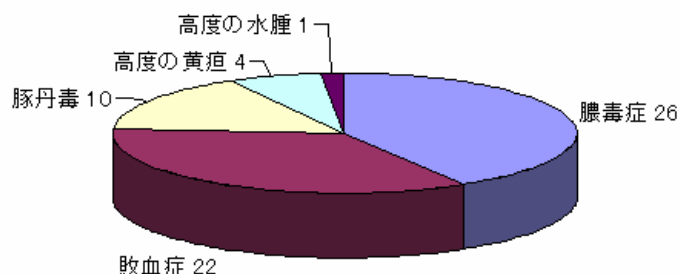
平成19年度に全部廃棄となった牛は30頭、豚は63頭でした。

原因疾病の特徴として、牛では水腫や尿毒症など肥育に関連したものが認められるのに対し、豚では膿毒症や敗血症といった細菌感染によるものがほとんどを占めます。

牛の全部廃棄理由



豚の全部廃棄理由



高度の水腫

栄養不良やビタミンA欠乏などにより、皮下や筋肉間に多量の組織液が貯留します。水分含有量80%以上を高度の水腫と判定します。



膿毒症

外傷などから化膿菌が体内に侵入し、皮下や筋肉、内臓等に膿瘍が形成されます。



尿毒症

腎臓や尿道の機能に障害が起こり、尿老廃物が体内に蓄積されるため枝肉や内臓に強い尿臭がします。写真は重度の腎炎を示しています。



敗血症

種々の細菌が体内に侵入し、全身に病巣を形成します。写真は心臓内に形成された症状結節を示しています。

